

観光文化スポーツ部

産業観光委員会

【所管関係資料】

(当日配布)

4月11日提出

令和7年第1回定例会（4月11日）
産業観光委員会
所管事項関係提出資料

令和7年4月11日
観光文化スポーツ部

【所管事項関係】

交通政策課	大館能代空港の三往復運航に係る覚書の更新について・・・・・・・・・・・・・・・・	3
スポーツ振興課	新県立体育館整備・運営事業の事業者選定結果について・・・・・・・・・・・・・・・・	5

1 目的

羽田発着枠政策コンテストによる発着枠の配分期間が令和11年3月24日まで延長されたことから、大館能代空港の三往復運航を県と航空会社が連携して支え、安定的・継続的な運航につなげるため、「大館能代空港東京（羽田）路線の運航に係る覚書」を締結する。

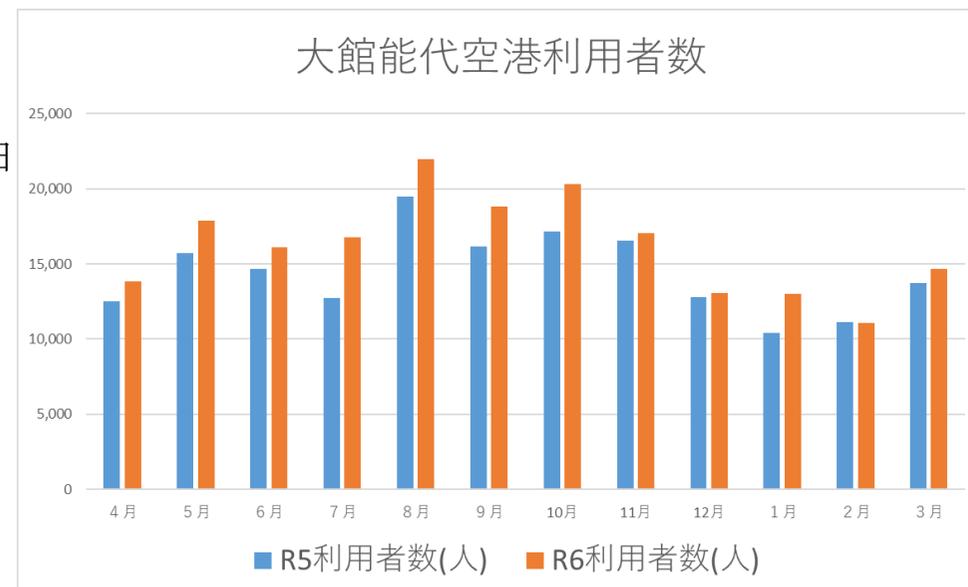
2 概要

対象期間内の利用者数が、各年度において、航空会社が想定する採算ライン（利用者数215,000人）に達しない場合に生じる欠損額を航空会社と折半し、着陸料減免（37,500千円）をしてもなお発生する欠損額を負担する。

- ・対象事業者：全日本空輸（株）
- ・対象期間：令和7年3月30日～令和11年3月24日
- ・負担限度額：各年度162,500千円
（着陸料減免を含めた県の負担上限：2億円）

3 予算計上

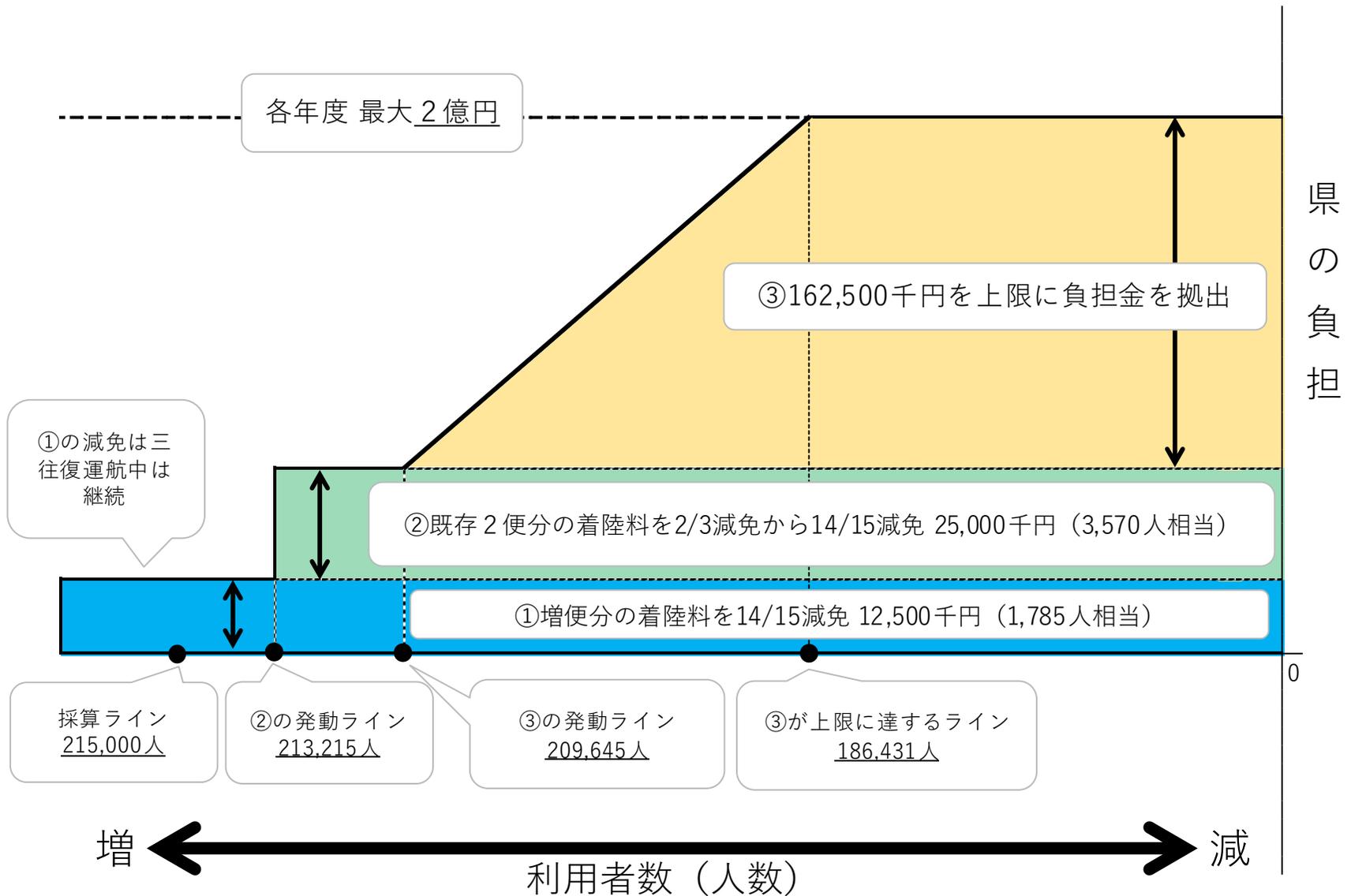
運航実績等に基づき、上記適用の有無について航空会社と協議し、負担が生じる場合は運航年度の2月補正予算へ計上する。



R5年度利用者数：173,057人 搭乗率：51.0%
 R6年度利用者数：194,655人 搭乗率：58.0%（速報値）

【参考】大館能代空港3往復運航 県の負担イメージ図

※3往復運航で発生した欠損は、原則、県と航空会社で折半する。



新県立体育館整備・運営事業の事業者選定結果について

スポーツ振興課

1 概要

令和6年12月20日に入札公告を行った本事業については、3グループから入札書等の提出があり、審査の結果、次のとおり落札者を決定した。

・落札者 清水建設グループ（代表企業：清水建設(株)東北支店）

構成員：(有)村田弘建築設計事務所、中田建設(株)、
(株)長谷駒組、(株)オーエンス、セントラルスポーツ(株)、
(株)コンベンションリンケージ

協力企業：(株)環境デザイン研究所

- ・入札方式 一般競争入札（総合評価落札方式）
- ・契約期間 契約締結の日から令和26年3月31日まで
- ・落札金額 32,523,023,412円（税込）



落札者提案の新県立体育館全景

2 審査の経緯・結果

審査は、入札金額に基づく「価格審査」に加え、建築の専門家や弁護士等で構成する「新県立体育館PFI事業審査会」において、事業計画の妥当性・確実性、施設整備や運営、自主事業等の提案内容を評価する「加点審査」を行った結果、総合評価点が最も高い提案を行った清水建設グループを落札者と決定した。

○入札結果

項目	配点	清水建設グループ 【落札】	鹿島建設グループ	三菱HCキャピタル グループ
入札金額(税込)	—	32,523,023,412円	35,472,800,000円	36,216,449,613円
価格審査	200点	200.00点	183.37点	179.60点
加点審査	800点	377.25点	392.25点	373.00点
総合評価点	1000点	577.25点	575.62点	552.60点

(参考)新県立体育館PFI事業審査会委員

区分	氏名	分野等
委員長	熊谷 嘉隆	学識経験者(統括) 国際教養大学理事兼副学長
委員	上林 功	学識経験者(設計・建設) 追手門学院大学准教授
委員	高橋 義雄	学識経験者(スポーツ政策) 早稲田大学スポーツ科学学術 院教授
委員	内藤 滋	学識経験者(法務) 弁護士、はげのき法律事務所
委員	石黒 道人	発注者代表 観光文化スポーツ部長

※令和7年3月6日現在

(参考) 落札者提案の概要

<整備概要>

- ・ 主な施設 アリーナ (6,030席)、体育館 (200席)、多目的室、トレーニング室、スイート室、ラウンジ、大屋根広場 等
- ・ 構造等 鉄骨造・地上4階建て
- ・ 面積 建築面積: 9,315㎡ 延床面積: 17,811㎡
- ・ その他 アリーナ内への搬出入トラックの乗り入れ可
アリーナ床やラウンジ内装等への県産材の活用
丘を活用した広場や大型遊具の設置

<利用促進>

- ・ 実績豊富な運営企業によるコンサートやスポーツ大会等の誘致
- ・ 働く世代や高齢者などをターゲットとしたスポーツ教室や講座の開催
- ・ グルメ祭りやキッチンカーフェスティバルの開催 など

3 落札者提案に対する審査会評価の概要

- ・ 「みる」アリーナとして高い臨場感のある観客席である。
- ・ 建築面積を抑えコンパクトで使いやすい計画であるほか、周囲の広場や丘とのつながり、興行設営時の搬入経路に工夫が見られる。
- ・ 施設内への遊具設置など日常の賑わいを生み出す提案となっている。
- ・ 地元企業の参画が少なく、地域経済への貢献に関しては、相対的に高い評価につながらなかった。
- ・ 立地条件を考慮した風雪への対策が必要である。

4 今後のスケジュール (予定)

- 令和7年4月 落札者が設立する特別目的会社との仮契約締結
6月迄 事業契約締結 (議決案件) 及び事業着手



アリーナ



体育館



スイート室